

日本岩石鉱物鉱床学会 渡邊萬次郎賞 第22回受賞者

加藤 昭 会員

加藤 昭会員は記載鉱物学の分野においては、他の追隨を許さない業績を挙げ、国際的な指導者として世界に広く知られている。多種類の鉱物について結晶データの収集と化学組成の分析を行ない、それらの生成条件を解析して成因を明らかにしてきた。その実績は国際的に高く信頼・評価され、昭和50年には新鉱物の審査承認の最高責任者である国際鉱物連合の新鉱物・鉱物名委員会の委員長に選任されている。委員長として8年間(1975~1982)にわたって活躍した後も、名誉委員長として記載鉱物学の指導的立場にあり、新鉱物の報告にあたってアドバイスを受けた内外の研究者は多数にわたっている。

本邦ではこれまでおよそ100種の新鉱物が報告されているが、そのうち生野鉱・褐錫鉱・櫻井鉱をはじめとする20種以上の新鉱物が加藤 昭会員によって研究された。これらの新種鉱物の記載に加え、日本新産鉱物の記載など、新たな産状を報告し地球科学に大きな知見をもたらした研究成果は顕著なものである。これらの研究の背景には、加藤会員の研究の発端である鉱床学の要素が色濃く反映されており、研究論文での考察にその研究視点の特徴が見いだせる。国立科学博物館の本務として鉱物の記載学的研究を続け、詳細なX線粉末回折データを付した鉱物標本資料の整理保管を行ってきたが、その結果の一部は化学分析用の最新機器の標準試料として利用され、鉱物学のみならず岩石学や結晶学さらに地球化学や分析化学の分野にも寄与してきた。また、学芸員の研修や講演会あるいは野外観察会の引率指導などを通して、鉱物学の普及教育活動にも大きく貢献している。近年では、鉱物読本シリーズの執筆を通じて、若手研究者や収集趣味愛好者にむけた鉱物学の啓蒙を精力的に行っている。

以上のような功績にもとづき、ここに加藤 昭会員を渡邊萬次郎賞第22回受賞者として推薦する。

加藤 昭会員の略歴

1931年(昭和6年) 6月19日生まれ
 1954年(昭和29年) 東京大学理学部地質学科卒業
 1959年(昭和34年) 東京大学大学院数物系博士課程修了、理学博士
 1959年(昭和34年) 東京大学理学部地質学教室助手
 1964年(昭和39年) 国立科学博物館地学課
 1971年(昭和46年) 国立科学博物館地学研究部地学第二研究室長
 1973年(昭和48年) 日本鉱物学会櫻井賞 受賞
 1995年(平成7年) 国立科学博物館地研究部長
 1996年(平成8年) 同 定年退職
 1996年(平成8年) 国立科学博物館 名誉研究員

日本岩石鉱物鉱床学会
 渡邊萬次郎賞審査委員会
 委員長 小畑 正明